

# あけましておめでとございます。

日頃より図書フロアをご利用いただきありがとうございます。今年も皆さまと本との出会いをサポートし、快適な読書空間を提供できるようスタッフ一同努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ◎今年「申(さる)年」新しい年の初めに、今年の干支である「猿」にちなんだ本をご紹介します。

『サル その歴史・文化・生態』  
デズモンド・モリス著／白水社／2015

世界各地のサルにまつわる伝説、動物寓話や風刺作品の主題としてのサル、芸術家のモチーフとなったサル、動物としてのサルなど、動物行動学者である著者により、実にさまざまなサルが紹介されています。

『日本文化と猿』  
大貫 恵美子著／平凡社／1995

あるときは、聖なる神の使い。あるときは、道化。日本の文化にとって、「猿」はどんな存在であったのか？日本人のサルに向ける眼差しの変化から日本文化を読み解きます。

## ◎近代文学の作品にも「猿」はたびたび登場します。

- ◆『猿』 芥川 龍之介 (『芥川龍之介全集 第1巻』より)
- ◆『猿ヶ島』 太宰 治 (『太宰治全集 第1巻』より)
- ◆『人間が猿になった話』 谷崎 潤一郎 (『谷崎潤一郎全集 第5巻』より)

## ◎千代田区にあり、山王祭で知られる日枝神社の神様の使いは「猿」と言われています。

一般の神社で見られる狛犬ではなく、神猿像が安置されていますので、ちょっと足を延ばしてご覧になってみてはいかがでしょうか。



▲「江戸時代日枝神社古絵図」日枝神社社務所(4階 特別研究室 所蔵)

## Service News 【サービス・ニュース】

**1/16 (土) 1/17 (日) 特別整理期間**  
2日間にわたり蔵書点検を行います。

**蔵書点検とは…** 書架に並んでいる本すべてのバーコードを読み取り、所蔵している本が正しい場所にあるかどうか、行方不明の本はないかなどを確認する作業のことをいいます。ご不便をおかけしますが、利用者の皆さまに、より迅速で快適なサービスを提供できるよう、今後とも蔵書の管理に努めてまいります。 ※2日間は、2・3階の図書フロア部分を臨時休業します。

点検期間中の本の返却は、1階エントランスの返却ボックスおよび国会通り側ブックポストをご利用いただけますが、本の返却処理が遅くなることをあらかじめご了承ください。

日比谷カレッジ報告  
日比谷図書文化館4周年記念講演会  
「松尾豊さんと考える 人工知能は敵か？味方か？」  
講師：松尾豊 (東京大学大学院工学系研究科准教授)  
ナビゲーター：志水 正敏 (日本科学未来館科学コミュニケーター)



▲人工知能研究の世界的第一人者である講師のお話、倫理や哲学的なことにまで及びました。  
▲ナビゲーターによる質疑応答の際も最後まで質問が途切れず、参加者の皆さんの「人工知能」に対する関心の高さが窺えました。

## 1月の展示情報

- 各ゾーン巡回展示「〇〇論・〇〇史」  
2F パープルゾーン 江戸、東京に関する豊富な資料の中から〇〇論・〇〇史と銘打ち、展示を行っています。風景史、建築史、事件史…など、江戸と東京の意外な一面が垣間見えるかもしれません。(～1/15)
- 3F グリーンゾーン グリーンゾーンには、微生物の生態から宇宙を語る本まで多種多様な本があります。その中から幸福論、食の歴史、モノづくり論など14のテーマにちなんだ本を展示しています。(～2/12)
- 2F パープルゾーン 巡回展「千代田区文化芸術プラン」パネル展示 (三角台)(～1/15)
- 3F ブルーゾーン 「ことば」NEW! (～4/15)  
私たちがコミュニケーションをとるうえでかせない言葉について、その深い世界を学ぶために、「知る」「伝える」「生かす」の3つの視点から関連本を収集し、展示を行います。

## わたしの一冊

『鯉の皮』 (『日本近代短篇小説選 大正編』)  
岩波書店 / 2012年  
他に『入れ札』(菊池寛) 『花火』(内田百閒) など15篇収録。どの作品からでも気軽に読めます。

道頓堀界隈の鰻屋の女主人にきた「通の手紙」。差出人は家出した放蕩人の旦那。街の光や音、まむしの匂う店の中で叔父や母から聞かされる旦那の悪口…。その後、法善寺裏の細い路地を歩む女主人は小料理屋で自分の思いを確かめるように杯を重ねる。この路地を歩むところが何ともいい。淡島千景が見たかった、と思わせる絶品です。何で「鯉の皮」？それは読んでのお楽しみ。

# 千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

## 特別展〈予告〉

# 祖父江慎 + コズフィッシュ展

## ブックデザイン

2016年1月23日(土)～3月23日(水)

「うまくいかない喜び」を軸に活動を展開するグラフィックデザイナー、祖父江(そぶえ)慎(しん)氏。本の中身・内容をいかに伝え、読者に訴え得るかが装丁やブックデザインの基本ですが、優れたデザインはその本の世界をより魅力的に語ります。デジタルデバイスの登場により読書環境が様変わりしていく今、本展では祖父江氏と氏が主宰するコズフィッシュのブックデザインを通して、フィジカルな「本」の魅力を探ります。



※会期中、展示替えあり ▶ 前期「cozf編」:1月23日(土)～2月14日(日) 後期「ish編」:2月16日(火)～3月23日(水)  
※休館日:2月15日(月)、3月21日(月・祝)  
観覧時間:平日10:00～20:00、土10:00～19:00、日祝10:00～17:00(入室は閉室の30分前まで)  
会場:千代田区立日比谷図書文化館1階特別展示室  
観覧料:一般300円、大学・高校生200円  
千代田区民・中学生以下、障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名は無料  
※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳をお持ちください。  
主催:千代田区立日比谷図書文化館  
共催:公益財団法人DNP文化振興財団



■ 展示構成 ■

- 関連イベント ■
- 対談 「造本あれこれそれ話」  
■ 日時:2016年2月18日(木)18:30～20:00  
■ 講師:祖父江 慎、白井 敬尚(ともにグラフィックデザイナー)
- 鼎談 「漱石本制作の舞台裏」  
■ 日時:2016年3月10日(木)18:30～20:00  
■ 講師:祖父江 慎(グラフィックデザイナー)、渡部 朝香(岩波書店単行本編集部)、前田 耕作(岩波書店製作部)
- イベント いずれも  
■ 場所:日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■ 参加費:500円 ■ 定員:200名(申込順、定員になり次第受付終了)  
■ 申し込み方法:電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp)、来館のうえ1F受付にて①講座名、②お名前、③電話番号をご連絡ください。

## コズフィッシュの書庫

前期「cozf編」=20世紀の書庫/後期「ish編」=21世紀の書庫  
祖父江慎+コズフィッシュによる約2000冊におよぶ全装丁本を前後期に分けて展示。

## 本の実験室

アイデア・プラン、紙(素材)、書体、本の構造、色と網点/加工/本の寿命(印刷・製本)等のコーナーにより本造りのさまざまな工程を紹介。

## 漱石室

『心』『吾輩ハ猫デアル』新装版展示室。現在制作中の『吾輩ハ猫デアル』の完成形は後期展示でお目見え。  
写真大・漱石「心」(岩波書店2014年)/写真大左・漱石「心」(岩波書店2014年)/写真大右・吉田戦車「伝染るんです。」(小学館1990年)

calendar 開館時間:平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2016年1月							2016年2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29					

※12月29日(火)～1月3日(日)→年末年始休館  
※1月16日(土)、1月17日(日)→図書特別整理による部分(図書フロア)休館

お問合せ先:千代田区立日比谷図書文化館  
〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL:施設代表 03-3502-3340  
図書総合カウンター 03-3502-3343 URL:http://hibiyal.jp

information ■部分(図書フロア)休館のお知らせ  
**2016年1月16日(土)、17日(日)**  
図書の特別整理を実施するため、2・3階の図書フロア部分を臨時休館します。そのため、図書の貸出・閲覧席の利用などができなくなります。本の返却は1階エントランスおよび国会通り側ブックポストをご利用ください。(一部資料を除く)図書フロア以外の施設は通常どおりご利用いただけます。  
※1月18日(月)は全館、休館日です。(文化財事務局は除く)

access 都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分  
東京メトロ ●丸ノ内線 ●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分  
●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分  
JR「新橋駅」徒歩10分 ※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 1・2月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

**1/16 (土)** **ピースビレッジ 第38回**  
**クリエイティブコミュニティーシップ**  
 講師：松田 創 (世界連邦21世紀フォーラム副理事長)

より複雑で不確実性を増した世界リスク社会で私たちの生活は機能不全を起こしています。その問題の本質は、古い世界観と固定観念に縛られ可能性を制限している「思考様式」と「意識」であると考え、そこに変容を起こすための手法を通じて「21世紀における平和」を考えてゆきたいと思えます。

■日時：1月16日(土)14:00～16:30(13:30より受付)  
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：3000円

〈次回予告〉・2月13日(土)14:00～16:30(13:30より受付)  
**ピースビレッジ 第39回**  
 「ライフスタイルとしてのピース・アクション」講師：木戸 寛孝

**1/19 (火)** **世界の音楽 第4回**  
**『月琴の世界』**  
 ～幕末に流行した明清楽の代表楽器を知る～  
 講師：稲見 恵七(明清楽研究者)

清楽は文化文政年間(1817～1830)に長崎に伝わり、その後東上して大流行しました。清楽で使用される楽器は20種類ほどあり、なかでも代表的な楽器が月琴です。当初中国からの輸入が主でしたが、後に国内の和楽器職人などにより緻密で精巧な細工を施され、現在まで大切に伝えられて来ました。そんな月琴の歴史や造型の美しさを、音と共に楽しみます。

■日時：1月19日(火)19:00～20:30(18:30より受付)  
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：1000円



「婦人音楽会」(楊斎 延一 画)

**1/20 (水)他** **本を読むことの愉しさ、深さ、おそろしさ(全3回)**  
**第1回「若者よ、都市を捨てて、本を読もう**  
**—いま、寺山修司を回転させる」**  
 講師：小林 康夫(青山学院大学特任教授)

寺山修司が若者へ「書を捨てよ、町へ出よう」と激しい言葉を投げつけてから半世紀が経った今、若者は「情報」という無時間なものが溢れているだけの「インターネット」という《都市》のなかに住みつき、本を顧みること益々稀です。一方、本の頁をあけると、そこからは「生きた時間」の香りが立ち昇ります。寺山修司の「生きた時間」の輝きをつかみ取ろうと、一みなさんといっしょに一試みます。(主催：上廣倫理財団)

■日時：1月20日(水)18:30～20:00(18:00より受付)  
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名 ■参加費：500円(千代田区民及び学生は無料)  
 ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



〈第2・3回予告〉  
 ▶日時：2月10日(水)18:30～20:00  
 「読書のチェス・プレイ ～文学的「読み」を勝負する」  
 ・ゲスト：朝吹 真理子(作家)(12月25日申込受付開始)

▶日時：3月2日(水)18:30～20:00  
 「言葉の光を求めて ～見知らぬ土地を歩くように～」  
 ・ゲスト：黛まどか(俳人)(2016年1月25日申込受付開始)

▶参加申込：電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

**1/23 (土)** **戦争とモーツァルト(全2回)**  
**第2回「モーツァルトの政治利用」**  
 講師：大原 哲夫(エディター、作家)

1941年のモーツァルト没後150年祭は、ナチスによる戦意昂揚のプロパガンダでもあった。ナチスの弾圧下という歴史的文脈の中でモーツァルトの演奏を振り返る。二つの「レクイエム」を聴き比べ、近衛秀麿、デニス・ブレインらの歴史的名演奏をSP盤を最高の音質で復刻したCD音源で聴く。

■日時：1月23日(土)14:00～15:50 ※途中休憩あり(13:30より受付)  
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：1000円



近衛 秀麿(1898-1973)

**1/28 (木)** **漢字の成り立ちが知りたい!**  
**～漢和辞典活用法～**  
 講師：円満字 二郎(漢和辞典編集者)

「又」はもともとどういう意味? 「受」と「争」って何が似ている? 「尊」と「貴」の意味の違いとは? 成り立ちを知ると、漢字と漢字のつながりや相違点が、はっきりと見えて来ます。実際の辞書の記述をわかりやすく解きほぐしながら、漢字の成り立ちの世界へのご案内いたします。

■日時：1月28日(木)19:00～20:30(18:30より受付)  
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：1000円



**1/29 (金)** **千代田区民講座**  
**建築界のジャンヌ・ダルク**  
**～女性の目線で住まいに革命を!～**  
 講師：戸倉 蓉子(株式会社ドムスデザイン代表取締役)

環境によって人間の生き方が変わることを病院在職中に悟り、イタリアのミラノに建築留学。帰国後に一級建築士の資格を取得した戸倉氏は、「環境を通じて、人を健康で幸せにすること」をミッションに、病院やホテルやマンションなどの住環境づくりで高い評価を得ています。暮らす人が輝ける生き方を応援し、日本を元気にするお話を聞きます。(主催：NPO法人神田雑学大学)

■日時：1月29日(金)19:00～20:30(18:30より受付)  
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：無料



**1/31 (日)** **演劇への入口講座 第5回**  
**はじめての文楽、その魅力**  
**—解説者・人形遣いの立場から—**  
 講師：高木 秀樹(歌舞伎・文楽研究者)、吉田 勘彌(人形遣い)

千代田区所在の国立劇場で上演されている伝統芸能の一つに文楽があります。この文楽について、前半は歌舞伎・文楽研究者の高木秀樹氏より文楽の楽しみ方をお話いただき、後半は人形遣いとして活躍中の吉田勘彌氏から文楽人形の仕組み、動かし方などの紹介と解説をしていただきます。

■日時：1月31日(日) 14:00～16:00(13:30より受付)  
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名 ■参加費：1000円(千代田区民500円)



吉田 勘彌氏

**2/1 (月)** **丸の内の「まちづくり」の変遷**  
**～一丁倫敦から東京駅前再開発まで～**  
 講師：東條 隆郎(株式会社三菱地所設計 副社長)

日本初のオフィス街である丸の内。新しい景観はどのように創られ、時代と共にどう変化してきたのでしょうか。明治期に始まり、関東大震災、戦後復興、高度成長期を経て、阪神淡路大震災後の耐震化、建て替え、復元、賑わい創出など、まちづくりの最前線までを語ります。(企画・協力：NPO法人 建築から社会に貢献する会)

■日時：2月1日(月)19:00～20:45(18:30より受付)  
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名 ■参加費：1000円



復元された三菱一号館

**2/3 (水)他** **ここがわかると、10倍楽しい 東京の建築(全2回)**  
**第1回 江戸・近代編**  
 講師：松崎 照明(東京家政学院大学客員教授)

東京には、名建築と呼ばれる建物が、どこに、どれくらいあるのでしょうか? また、その建物は、何故名建築なのでしょう? 第1回は、上野東照宮、旧古河邸、東京駅など、東京に残る江戸時代以前の建物と明治、大正の名建築について、歴史上のポイントを説明しながら解説します。歴史、見どころ、他の建物との関連も含めて、奥深い日本建築の世界へご案内します。

■日時：2月3日(水)19:00～20:30(18:30より受付)  
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：1000円



上野東照宮

**2/9 (火)** **お江戸ルーリー文化講座 第三弾**  
**新選組ができるまで**  
**～幕末の若者たちはなぜ京都をめざしたのか～**  
 講師：堀口 菜純(文化人・タレント)

お江戸ル(江戸にくわすすぎるアイドル)ルーリーこと、堀口菜純による「文化講座」第三弾は「新選組」がテーマ。ドラマや小説であまり語られない結成前の彼らにスポットを当て、浮世絵を通して時代背景を解説しながら、なぜ彼らが新選組を結成するに至ったかに迫ります。(主催：株式会社ネットアドバンス)

■日時：2月9日(火)19:00～20:30(18:30より受付)  
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：1000円



**2/17 (水)** **HIBIYAイノベーション・キャンパス2015 ワークショップ実践編：**  
**『イノベティブ思考が育つワークショップのデザイン』**  
 講師：富田 欣和(慶應義塾大学大学院SDM研究科特任講師)  
 渡辺 今日子(慶應義塾大学大学院SDM研究科特任助教)  
 高坂 有良(慶應義塾大学大学院SDM研究所研究員)

イノベティブ思考を実務に活かしたい方や、上司やチームメンバーをどう巻き込めばよいのか分からずに悩んでいる方にお薦めのワークショップです。「どうすれば関係者の理解を得やすいのか」、「どのようにチームで課題に取り組めば良いのか」を、多くの企業を支援してきた経験を踏まえてお伝えします。(共催：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント(SDM)研究科附属SDM研究所イノベティブデザインセンター)

■日時：2月17日(水)19:00～21:00(18:30より受付)  
 ■会場：4階 セミナールーム A(会議室) ■定員：24名 ■参加費：2000円



**2/19 (金)他** **図像学入門(全2回)**  
**第1回 キリスト教編**  
 —《受胎告知》には、なぜ「鳩」が描かれているのか—  
 講師：木村 三郎(日本大学芸術学部教授)

一枚の絵画から、あなたは何を読み解きますか? 描かれているアイテムをもとに、その背景となる物語や人物像を知る学問、「図像学」。聖母マリアと「百合」、犬と「忠節」など、いくつかのキーワードを知ることで、彫刻や絵画、映像などの芸術鑑賞がもっと楽しくなる講座です。

■日時：2月19日(金)19:00～20:30(18:30より受付)  
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：2000円(全2回分)



Sandro Botticelli「ヴィーナスの誕生」

◆古文書塾てらこや1月期 本講座開講◆

日比谷カレッジ「古文書塾てらこや」の多彩な講師陣による特別講座を開講いたします。江戸時代を中心とした資・史料、伝書、手紙などを用いながら、具体的に歴史の真実に迫ります。各講座とも3ヶ月で全5回の講座を実施します。

■日時：1月7日(木)～順次開講  
 ■会場：4階 セミナールーム(会議室)  
 ■定員：各23名(申込順)  
 ■参加費：各講座共13,650円(全5回講座・3ヶ月分、別途資料代500円)  
 ■資料請求、お問い合わせ：電話(03-3502-3340) 古文書塾てらこや担当

※【翻字者育成講座】には別途テキスト・ハーバード大学美術館蔵「源氏物語 蜻蛉」(税込1,944円 2014年新典社)が必要です。(当館でのご用意も承ります)。※てらこやに関する資料をご希望の方には、無料でご送付いたします。

	講座名	曜日・時間	開講日
特別講座 (3ヶ月) 90分全5回	大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00～	1/19
	浮世絵を読む	(水) 10:10～	1/20
	くずし字で読み解く茶の湯の伝書	(木) 13:30～	1/14
	江戸を楽しむ一統・江戸の寺社あれこれ	(木) 18:30～	1/7
	月峯が見た江戸の町—「江戸名所図会」「齋藤月峯日記」より	(金) 13:30～	1/22
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(入門編)	(土) 10:30～	1/9
	【翻字者育成講座】ハーバード大学美術館蔵「源氏物語 蜻蛉」を読む	(木) 18:30～	1/14

● 特別研究室企画展示 ●

**雑誌『風俗画報』で楽しむ 明治期の東京めぐり**  
 ▶ 1月19日(火)～3月20日(日)

明治22年から大正5年まで発行された『風俗画報』をご存知ですか? 日本のグラフ誌のさががけといえる雑誌で、挿絵や写真から当時の社会をうかがい知ることができます。本展示では特別研究室で所蔵する『風俗画報』(原本)の中の新撰東京名所図会を中心に、そこに描かれた明治期の東京と人々の姿を紹介します。

明治32年消防出初式梯子乗の図(『風俗画報』第186号 / 東陽堂 / 1899年)▲

◆ポモ—又広報室より◆

明治頃まで初詣はその年の最も良い方向、「恵方」へとお参りしていました。2016年の恵方は南南東、丙(ひのえ)となり千代田区では皇居を基点とすると日比谷公園付近になります。2016年の日比谷図書文化館は縁起の良い場所かもしれません。また、2016年の干支は申(猿)年。皆さまにとって「えん(縁・猿)」のある年になりますように。

